湖南地区　地域づくり懇談会　　議事録

１　日　時　平成２７年７月８日（水）　１９：００～２０：１５

２　会　場　湖南地区公民館大郷分館

３　出席者　地元出席者　　３８名

市側出席者　　１５名

深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、田中中核市推進監、田中企画推進部長、井上農林水産部長、藤井都市整備部長、澤田環境下水道部長、久野地域振興監、浅井観光戦略課長、高橋秘書課長

＜事務局＞馬場協働推進課長（司会）、岡本協働推進課課長補佐、岡田協働推進課主任、酒本協働推進課主任

４　中核市移行についての説明

（中核市推進監）※チラシに基づき説明

５　人口ビジョン骨子（案）についての説明

（企画推進部長）※チラシに基づき説明

６　地域の重要課題について

１　中山間地への鳥取市の施策について

＜地域課題＞

中山間地へ行っている鳥取市の施策を具体的に知らせていただきたい。鳥取市におけるもので湖南地区に限定してではありません。

＜担当部局の所見等＞

【企画推進部地域振興監】

本市では、中山間地域の課題解決と地域活性化のため、とっとりふるさと元気塾によるリーダーの育成、買い物困難地域での移動販売の確保、集落や団体などが自ら取り組む地域課題の解決､地域振興を図るための里山交流の実施や､｢輝く中山間地域創出モデル事業｣等による、活性化に向けたソフト事業やハード事業の取り組みの支援をしています。

また、中山間地域振興推進員による住民活動のサポート体制を整備し、地域活性化に向けた活動の積極的な支援も実施しています。

①中山間地域の活性化指導者養成事業（リーダー養成）

・｢とっとりふるさと元気塾｣を開催し、商品開発や交流の実践者、地域づくりを推進するリーダーを養成

②中山間地域・買い物支援事業

・トスクの移動販売を支援（平成２５年３月より湖南地区に拡大）

③里山交流促進モデル事業

むらとまちによる交流事業を支援（補助率１０／１０、上限１０万円、最長３年間）

例：農業体験や収穫祭、特産品加工など

④輝く中山間地域創出モデル事業（ソフト事業）

・活性化計画の作成支援（補助率１０／１０、上限１０万円）

・計画に基づくソフト事業の実施を支援（補助率８／１０、上限２００万円）

計画策定（補助率１０／１０、上限１０万円　ソフト事業:補助率８／１０、上限２００万円）

例：伝統文化や風習の保存・伝承、特産品開発、史跡・自然の保全など

⑤地域資源活用型コミュニティビジネス支援事業、遊休施設活用支援事業（ハード事業）

地域資源活用した特産品づくりや販売関連施設整備などによるコミュニティビジネスや遊休施設を活用した、地域活性化のためのハード事業等に対する支援（補助率１／２～５／６）

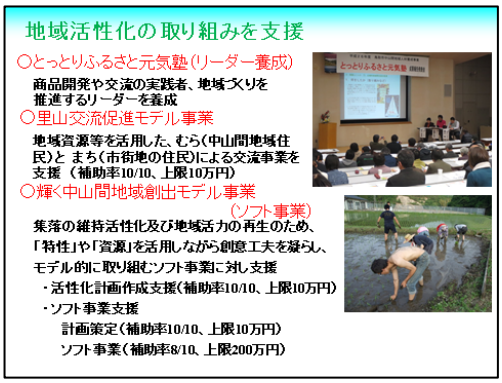
（地域振興監）

鳥取市は、面積の９０％が中山間地域ですので、市の施策は、中心市街地以外は全て中山間地域施策といっても間違いではないかもしれません。

地域振興課では、中山間地域の課題解決や活性化を目的として、移動販売ルート確保への支援や地域活性化の取り組み支援などに取り組んでいます。

人口減少により買い物困難地域が出ているという事で、まずは移動販売についてご紹介します。

湖南地区では、すでに平成２５年３月からトスクが移動販売をされていますが、鳥取市内には、買い物ができる店舗のない地域がかなり出てきています。そのため、鳥取市では鳥取県と協調して、平成２４年度から、移動販売事業に関する導入費や運営費を３年ないしは５年にわたって補助するといった買い物支援制度を設けています。市内西部地域では、鳥取いなば農協と林兼太郎商店の２つの業者が、この制度を活用して移動販売を行っています。



また、ソフト事業として、中山間地域の課題を解決することを目的に、「とっとりふるさと元気塾」を開催し、地域のリーダーの養成を進めています。市長を塾長として、年間を通して地域に出向いて地域の課題を解決したり、商品開発や交流を進めるための専門講座を開いたりしていて、今年で５年目になります。

今年は７月４日に開校式を行いました。今後、順次さまざまな場所で開催していきます。元気塾には年間を通して参加することもできますし、１回だけの参加もできますので、興味ある講座がありましたら、皆様もぜひご参加ください。

次に、「里山交流促進モデル事業」です。この事業は、まちとむらが地域資源を活かし

た交流をすることによって活性化を図ることを目的に、３年にわたって年間１０万円を支援していきます。「まち」と「むら」としてはいますが、「むら」同士の交流も対象で、つまりは住民同士の交流を進めて活性化していくということです。

次に、「輝く中山間地域創出モデル事業」です。これは、各集落や各地域が自らの手で集落の活性化に向けた課題解決をしていただきたいという目的で、モデル的な取り組みに対して支援をしています。計画策定時には１０／１０、上限１０万円の補助を行い、事業開始後は、ソフト事業として最大３年間、累計上限２００万円を補助します。

また、ハード面では、「地域資源活用型コミュニティビジネス支援事業」、「遊休施設活用支援事業」があります。補助率が１／２から最大５／６で、それぞれの取り組み内容によって補助率が変わります。これは、鳥取県と鳥取市が共同で支援し、審査会も設けています。「遊休施設活用支援事業」については、例えば空き店舗や空き家、倉庫を活用して、総合的に地域の活性化を進めていただける取り組みに対して支援をしています。

以上、地域振興課で実施している主な支援策を紹介させていただきました。

２　湖南地区地域振興計画について

＜地域課題＞

◎吉岡温泉周辺整備事業

（１）吉岡温泉館の移転新築工事

（２）吉岡まちなか温泉公園（仮称）と公衆便所の設置

（３）景観整備と駐車場の整備

＜担当部局の所見等＞

【経済観光部】

平成２９年度に鳥取西道路の吉岡温泉ＩＣが開通予定となるなか、本市では吉岡温泉町、吉岡温泉旅館組合とともに組織する「吉岡温泉活性化連絡会」において、本市が所有する毎分１００リットルの温泉権を活用した吉岡温泉町の活性化の具体的内容について、協議・検討を重ねてまいりました。

今回、吉岡温泉町を含む湖南地区の総意のもとで取りまとめられた吉岡温泉館の新築移転をはじめとする吉岡温泉周辺整備事業は、滞在型観光を推進する本市の方向性とも合致するものであり、ご希望の実現に向けて本市としても可能な支援を検討しながら、連絡会での協議を進めてまいりたいと考えます。

（観光戦略課長）

吉岡温泉周辺整備事業としては、吉岡温泉館の新築移転と移転後の公園や公衆便所等の整備についてご要望をいただいています。

鳥取市は、平成１３年度に、吉岡温泉町から毎分１００リットルの温泉権を取得しました。そして、これを活用して観光振興や地域振興につなげるということで、吉岡温泉町や旅館組合と一緒に、「吉岡温泉活性化連絡会」を設置しています。今年も、５月１５日に第１６回目の連絡会を開催しました。

連絡会等の中でも、吉岡温泉館の新築等については昨年来ご要望をいただいていますし、

昨年１０月にはまちづくり協議会さんからもこの事を含めた要望書をいただいています。
こうした整備事業は、基本的には民設民営でお願いしたいと考えていますので、市として可能な支援を検討しながら､引き続き連絡会での協議を進めていきたいと思っています。
吉岡温泉館は、昭和４８年に国と鳥取県と鳥取市が１／３ずつ負担して建設した後、２０年間は国民保養センターとして活用していただく事を条件に、昭和５５年に吉岡温泉町に払い下げをおこないました。払い下げはしましたが、現在も建物の登記上の所有者は鳥取市になっています。この所有権移転登記を進めるため、現在、吉岡温泉町には認可地縁団体としての法人化の手続きをお願いしています。
また６月２１日には、連絡会の活動の一環として、近隣２か所の入浴施設の視察を行いました。１か所目は、岩美町の岩井温泉にある「ゆかむり温泉館」です。ここは、岩美町が整備し、指定管理施設として岩井温泉区に管理を委託しています。施設面積は約３３０m^2で、吉岡温泉館とほぼ同じ規模です。１２年前に建設され、経費は２億８００万円かかっています。当時の環境省の事業を使い、国と鳥取県と岩美町が１／３ずつ負担して建設された建物です。
もう１か所の視察は、兵庫県香住町の矢田川温泉にある「温泉館」です。こちらはほぼ平屋建てですが、面積が８２０m^2あり、かなり規模が大きい建物です。この「温泉館」も、当時の香住町が整備し、現在は第三セクターである矢田川開発株式会社が管理しています。この建物は平成１２年にオープンしました。当時の建設費用は２億７，９００万円かかっています。
こうした視察の事例を参考にしながら、資金計画や安定した運営のための採算制度についてご検討いただきたいと思います。鳥取市としても、観光振興につながるよう、施設についてのあり方を一緒に検討していきたいと考えています。

（地元意見）
まちづくり協議会が発足し、平成２２年に地域コミュニティ計画を策定しました。その中で湖南地区の吉岡・大郷の一本化などを含め、基本計画として１２項目の多岐にわたる目標を掲げてまちづくりに取り組んでいます。その中の１つに、湖南会館を建設しようという目標を掲げています。
計画の中に具体的に１００リットルの温泉権の問題を書いているわけではありませんが、頭の片隅にはずっとあります。実は一時、露天風呂構想があったのですが、地域の合意が得られず棚上げになった経緯があります。それ以降は動きがありませんでしたが、そこも踏まえてまちづくり協議会の計画の中に挙げていこうという話になり、１００リットルを鳥取市民にどう利用していただくようにすれば良いのか、使い方について検討しようということで、委員会を立ち上げました。
委員会の中では温泉プールや湖南ホールの建設を目標に掲げて議論し、３月には協議会に答申しています。そしてこのたび､「湖南だより」という地区公民館が発行している広報誌に答申の内容を記載し、全地区民に周知するように配布しています。各集落で充分議論していただきたいと提起しており、地域の要望がまとまれば行政に上げていこうと思います。
先ほど、温泉館は民設民営でと説明がありましたが、公設民営でできる方策がないか議

論しています。１００リットルの温泉権の話も今回初めて地域に示されたと思うので、ここ１、２年の間に浮上した案ではないかと思いますが、地域の中で分捕り合戦をしていてもいけないので、充分議論し合意をした上で、地域の要望として鳥取市に出していかなければいけないと思っています。

地域コミュニティ計画の中には地域の動きについて書いてあるし、鳥取市からも「地域コミュニティ計画の推進にあたっては充分支援する」という支援宣言をいただいているので、現在湖南地区のまちづくりはこういう動きで進んでいるということを承知しておいてほしいと思います。

（深澤市長）

先般７月２日に協議会が開催され、鳥取県と鳥取市の職員も参加させていただきました。折しも、平成２９年度には仮称「吉岡温泉インター」が供用開始になることもありますので、これを契機に、皆様と引き続き一緒になってまちづくりをしっかりと進めていきたいと思っています。

＜地域課題＞

◎湖山池南岸周辺整備事業

（１）レーク大樹から防己尾公園遊歩道の整備

（２）湖山川（長柄川）の防護岸遊歩道の早期実現

（３）防己尾公園の再整備と遊覧船寄港のための桟橋設置

＜担当部局の所見等＞

【農林水産部】

（１）レーク大樹から防己尾公園遊歩道の整備

湖山池公園南岸の遊歩道途中に架かる宇田川橋は、橋面のコンクリートのひび割れ、一部陥没等により、現在、通行止めの措置を取っております。

この橋は鳥取市が昭和５１年に整備した遊歩道の一部で、平成２２年に鳥取県が行った親水性護岸への改修工事により、橋に接続する遊歩道が新しく付け替えらえた際に、県と市の整備区分が整理されていないまま現在に至っておりましたが、このたび、県より宇田川橋は引き続き市で管理してほしいとの提案が示されたところです。

地元の皆様からは、遊歩道機能を維持するためにも、宇田川橋について、せめて人が通行できるように修繕してほしいとの要望を伺っているところであり、市としても早急に決めていきたいと考えています。

なお、湖山池公園内の９０ｍほど離れた位置に新しい橋が整備されている状況もあり、多額の経費をかけて宇田川橋の架け替えを行うことは困難と思いますが、工事内容や経費面を考慮し、簡易な修繕が可能か検討したいと考えています。

また、新たに整備された遊歩道の表層コンクリートの剥離、県道側の車止機能の回復については県に現地確認と早急な対応をお願いしているところです。

（農林水産部長）

宇田川に架かる橋は、現在コンクリートが壊れてしまい中が空洞になっています。この橋が本当に橋かどうかについて少し疑問はありますが、昭和５１年に農業構造改善事業で整備されたと伺っています。そして平成２１年からは、鳥取県が金沢の公園予定地の湖山池側の護岸整備に併せて整備したいとのことで地元の方々とも協議させていただきましたが、最終的にこの橋をどうするかについては決めないまま現在に至っています。

ここから約９０ｍ上流側には車が通れる橋が整備されているため、地元からは、この橋についてはせめて人が通れるようにしてほしいという話も伺っています。

鳥取市に対しては、湖南地区に限らず市内のいろいろな地域から多くの橋、特に農道橋の修繕等の要望をたくさんいただいていますが、それにもなかなか応えられない状況があります。その中で、この橋を新たに整備するのは大変難しいと思っています。しかし、せめて人が通行できるようにしてほしいとのご要望ですので、簡易な修繕等による対応が可能かどうか検討させていただき、結果を報告させていただきます。

（担当課補足：農業振興課）

破損の激しい箇所を修繕して一時的に使用を再開することを検討しましたが、橋を支えるコルゲート管（鋼材）の腐食が進行しており、将来にわたって充分な強度が得られない状態であると推測されます。

約２００万円の修繕費をかけたとしても数年で再整備が必要になることも懸念されることから、修繕は不適当であると考えます。

また、歩道橋を新たに新設する場合、事業費が２千万円必要となり、既に上流側９０ｍに橋があることから、新たな橋の設置は困難であると考えています。

【都市整備部】

（１）レーク大樹から防己尾公園遊歩道の整備

レーク大樹横の湖山池公園遊歩道と防己尾公園遊歩道を結ぶ区間のうち、レーク大樹からテニスコート裏の区間については、平成２６年３月に整備完了し、平成２６年４月１日から供用開始しているところです。

県道部分については、県道管理者である鳥取県に確認したところ、下記の通り回答がありました。

＜鳥取県回答＞

県道部分（金沢伏野線）については、見通しが悪いカーブ区間があり、また、湖山池シーズンウォークルートとしての歩行者の利用が増えていることから、歩道新設の平成２８年度事業化に向けて取り組んでいきます。

県道の歩道整備については、本市としましても、引き続き県に対し事業の早期実現に向けて要望してまいります。

（２）湖山川（長柄川）の防護岸遊歩道の早期実現

河川管理者である鳥取県へ確認したところ、下記のとおり回答がありました。

＜鳥取県回答＞

湖山川の改修については、平成２５年度までに湖山池から田中橋までの区間の整備を完了し、現在、上流の長柄橋までの区間について、早期治水効果の発現に向けて事業を促進しているところです。

引き続き防護岸等の未整備区間の整備を進めるとともに、遊歩道の設置についても、県・市連携のうえ検討してまいります。

本市としましては、湖山川の河川改修に合わせた遊歩道整備を、県と協議・検討してまいります。

（３）防己尾公園の再整備と遊覧船寄港のための桟橋設置

湖山池公園（防己尾）につきましては、平成１３年３月に整備完了しており、現時点では再整備の計画はありませんが、再整備について地域振興計画の協議の中で地域の方と一緒に検討したいと思います。

なお、眺望を阻害している樹木等の伐採については、景観に配慮しながら対応を検討していきたいと考えております。

また、遊覧船の桟橋設置につきましては、事業者である山陰松島遊覧に確認しましたところ、将来的には検討の余地はあるが、現在の運行が軌道にのるように努力しているところであるとのことでした。

（都市整備部長）

レーク大樹からテニスコート裏までの区間については、平成２６年３月に整備完了し、平成２６年４月１日から供用開始しています。

県道部分について道路管理者である鳥取県に確認したところ、「県道部分には見通しが悪いカーブ区間があり、また湖山池シーズンウォークのルートとしての歩行者の利用が増えていることから、歩道新設については平成２８年度事業化に向けて取り組んでいきます」との回答でした。本市としても、引き続き鳥取県に対して事業の早期実現に向けて要望していきたいと思います。

次に、湖山川の遊歩道整備についてですが、河川管理者である鳥取県に確認したところ、「湖山川の改修については、平成２５年度までに湖山池から田中橋までの区間の整備を完了し、現在、上流の長柄橋までの区間について、早期治水効果の発現に向けて事業を促進しているところです。引き続き防護岸等の未整備区間の整備を進めるとともに、遊歩道の設置についても、県市連携の上検討してまいります」との回答でした。本市としても、湖山川の河川改修に併せた遊歩道整備を県と協議・検討していきたいと考えています。

最後に、防己尾公園については、平成１３年３月に整備が完了しており、現時点では再整備の計画はありませんが、地域振興計画の協議の中で地域の皆様と一緒に検討したいと考えています。眺望を阻害している樹木等の伐採については、景観に配慮しながら対応を

検討していきたいと思います。
　遊覧船の桟橋設置については、事業者である山陰松島遊覧に確認したところ、「将来的に検討の余地はあるが、現行の運航が軌道に乗るよう努力しているところです」という回答でした。

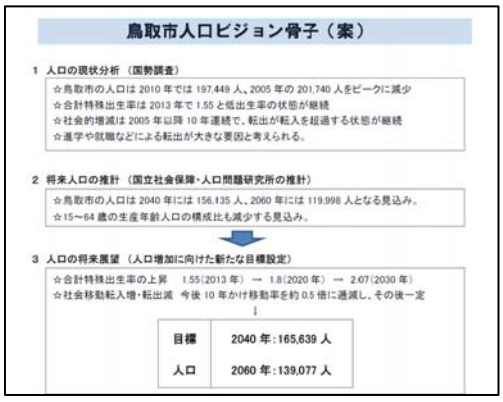
（地元意見）
遊覧船の桟橋設置について、事業者である山陰松島遊覧に確認したとのことですが、桟橋は事業者が設置するのですか。それとも、市が補助をするのでしょうか。

（都市整備部長）
　今、青島の所にある桟橋も、事業者が桟橋をあそこに設置したいとのことで、県と市が支援したものです。桟橋の場所を決めるのは、基本的には遊覧船を就航されている山陰松島遊覧さんであり、「ここに桟橋を設置したい」という意向があった場合に、県と市が協力して支援することになります。
　現時点は、今の場所にたくさんのお客様に来ていただくように努力されていると伺っています。

７　市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）
鳥取市は中核市に向かって進むと思いますが、今日の資料にある人口ビジョン骨子（案）を見ると、かなり人口が減少していると思います。中核市を目指すのも、人口が２０万人以上でなければいけないと思いますが、これだけ人口が減少しても中核市になれるのでしょうか。

（深澤市長）
　これはあくまでも推計ですので、今後は、合計特殊出生率がどうなるか、また転出入がどう変化していくのかといったことを具体的に推計していかなければいけないと考えています。目標人口では２０４０年に人口が１６万５千人という推計にしていますが、やはり国全体でも、この１０年や２０年では人口の回復はなかなか難しいため、実際にはもう少し期間が必要だということになるかと思います。



　中核市については、昨年５月に地方自治法の改正があり、従来は人口が３０万人以上であることが１つの要件でしたが、改正後は２０万人以上に緩和されました。これは、国としても中核市を全国に少しでも多く作っていきたいという考えだと思います。そして、２０万人や３０万人程度の市が中心になって、その圏域を支えていくという構図を描いているのだと思っています。山陰東部に置き換えて考えると、鳥取県東部はもとより北但馬も含めた中で、鳥取市が中心になってこの圏域を支えていくという構図ということです。

この１６万５千人というのは、あくまでも推計です。今、いろいろな取り組みを力強く進めていくことにより、人口が減少するのではなく増加していくといったことも大いに期待したいと考えています。中核市には人口要件がありますが、従前に特例市に指定されていた鳥取市は、人口が２０万人を切っても中核市になることができます。将来、仮に人口が減少したとしても、中核市であり続けることはできます。逆に、中核市になることによって、人口減少を少しでも食い止めていくことになると思っています。

（地元意見）

３年前まで公民館長をしていて、その折に人口減少には危機感を抱いていたので、鳥取市の住民登録を基に、湖南地区の人口動態を調べました。湖南地区は、人口が２千数百名です。その内、毎年４０名程度減少しています。私が勤務していた時はそうでした。４０名というのは、１つの集落分に相当します。つまり湖南地区では、毎年１つの集落がなくなっているような実態です。年代では、１０代から２０代の人口がぐっと減っています。おそらく就職や進学で地区を離れるのだと思います。ある程度はやむを得ない部分もありますが、問題は２０代から３０代が減少していることです。これは、結婚して外に出ていっていると考えられます。

もう１つ、出生が極めて減少しています。結婚しない人がいることや、２０代から３０代の人口が減少することにより子どもが産まれなくなるという悪循環に陥っています。それが､毎年４０名ずつ人口が減少することに跳ね返っているのです｡住みやすい地域では、３世代家族などもあり全く人口が減少しない集落もあるので、こういう状況は地区内でもいわゆる限界集落というか、奥の方に多いようです。

総合戦略の骨子案にある項目の中の何か１つを実践すれば、人口減少が解決するということはないと思います｡いろいろな施策を講ずる必要があると思うし､“まちづくり”や“ひとづくり”という部分については､地域としてしなければいけないこともあると思います。

地域で解決できないのは､“しごとづくり”です｡市としても企業を誘致していますが､私達の子どもや孫が働く場がありません。だから、地域外に出ていかざるを得ないという実態があります。外に出ている自分の子どもを帰したくても、帰って働く場がないというのが切実なところです。だから、高齢者２人世帯や１人世帯が非常に多いです。

公民館長の時に、湖南学園の子ども達に「４０人ずつ人口が減少していくということは６０年後には湖南地区の人口が０人になり湖南地区が消滅する」という話をしました。そして、ぜひ皆さん全員が湖南地区に残ってほしいとお願いしました。

人口減少は鳥取市全体の課題ですが、湖南地区としても影響が出てきているので、いろいろな手段で、特に“しごとづくり”については、ぜひ力を注いでほしいです。

（深澤市長）

湖南地区の人口動態についてお話いただきましたが、これはほぼ鳥取市全体の現状と同様です。特に、鳥取市の人口が少しずつ減少している理由について社会動態等を分析してみると、まさに２０代から３０代、特に２０代の転出が多いです。実は、学校を卒業された方が地元に就職されずに、市外、県外に就職の場を求めて転出されるということが非常に顕著で、人口減少の中でも１つの大きな要因になっています。これを解消していくため

には、やはり市内に安定した職場をもっともっと作りだしていくということが１つの対応策になると考えています。そのためには、地場産業、既存の地元企業を支援し底上げしていくことと併せ、新しい企業を誘致していくことが必要だと思っています。このことについても鳥取市は非常に力を入れているところであり、幸いにも今年度、非常に将来有望な３つの企業の進出が決定しました。大手自動車メーカーの枢要な部品を製造される株式会社イナテック、航空機の主要な部品を製造される今井航空機器工業株式会社、そして豆乳を製造されるマルサンアイ株式会社、いずれも東海地方に本社がある企業ですが、立て続けに進出が決まりました。そしてそれぞれ、約１００名、正規採用を中心に雇用していただく計画を発表していただいているところです。

今後も引き続き、将来有望な企業の誘致にしっかりと取り組んでいきたいと思っていますし、西道路の供用開始も１つの大きな契機になるものと期待しています。そして、県外で活躍されている地元出身の方にも、ぜひ鳥取に帰っていただきたいと考えていますので、そういった働きかけも具体的にしていきたいと思います。

これからは、むしろ人材の確保が課題になっています。鳥取出身の若い方に情報をしっかりと提供して帰って来ていただく、そして鳥取出身の方には引き続き鳥取に残っていただく、こういうことを強力に進めていきたいと思っています。

（地元意見）

私は５０年以上鳥取を離れていて、昨年、県外から鳥取に帰ってきました。以前住んでいた市は人口が１７万５千人程度で、平成１６年の広域合併で一時１８万人くらいになったこともありましたが、ずっと１７万人程度できています。

今日の話を聞いていると、いろいろ案が出されているようです。現在の状況はよく分かりませんが、人口減少は食い止めて、人口増加について実効力のある案で進めてほしいです。

（深澤市長）

総合戦略は今年９月を目途に策定する予定で、１つの人口推計としてこの数字を出しています。我々の希望を入れて、もう少し減少に歯止めがかかったような推計をすることもできるのですが、国が推計している数値も１つの参考にしながら、現実的なところで推計しています。

今後、企業誘致や地域経済の活性化、また子育て環境の整備など、いろいろなことを総合的に取り組んでいくことによって、人口減少に少しでも歯止めをかけていくよう、全力で取り組んでいきたいと思っていますし、中核市移行の取り組みも、人口減少に歯止めをかける１つの大きな取り組みだと思っています。

（地元意見）

鳥取市の総合戦略の骨子案の、「次世代の鳥取市を担う“ひとづくり”」の中に、「結婚・出産・子育て・健康支援」という目標が記載されています。子どもが少ないのは、結婚しない適齢期の男女がたくさんいるからだと思います。

もう思い切って全国初の結婚斡旋課でも作って、どんどん行政が前に出ていくのも１つ

の方法かと思います。行政がそこまでしてよいのかという議論はあるかもしれませんが、ずっと待っていて言葉だけ発していても、子どもは増えませんよ。ぜひ検討してください。

（深澤市長）

実は、今ご提案いただいた内容については、鳥取市はすでに取り組んでいます。婚活サポートセンターといいます。このサポートセンターでは年間いろいろな企画をして、何とか出会いの場を作って結婚につながるようにという取り組みをしています。いろいろなアンケートやご意見もいただきながら運営しており、先日は公務員を対象にしたことでちょっとお叱りもいただきましたが、それにめげずに今後も行政として出会いの場を作り出していこうと思っています。

（企画推進部長）

民間業者がされていることについては、以前であれば行政は踏み込まなかったのですが、結婚しない、できない、晩婚化などが社会問題化していることもあり、今では都道府県レベルや市町村レベルでの結婚のサポート事業が、レベルに差はあれども一般施策化しているという状況があります。

もう一歩踏み込んだ、結婚を支援する課というご提案については、今のところ「はい分かりました」というお返事はできませんが、状況を見ながらやはり必要だということになれば、結婚支援というより、結婚から子育て、そして教育や子ども関係といったものの総合部署を作ることは検討すべき材料になってくると思います。

（地元意見）

湖山池の浄化についてお聞きします。今朝の日本海新聞に、湖山池をきれいな水にしたいということで、池の底に、水をかき上げるジェット気流用の装置を据え付けたと掲載されていました。現在どの辺りに置いてあるのかということと、いろいろ移動させて湖山池全体の浄化に対応する予定かどうか、教えてください。

（環境下水道部長）

今、鳥取県と一緒に、流動装置という装置を設置しています。これは、湖山池の水を深い部分から撹拌して流れを起こすことにより、深い部分の貧酸素の状態を表面の方に持っていき、空気を循環させるという装置です。

池の深い部分はヘドロ等が溜まっている関係上、リンや窒素などが発生し、どうしても酸素量が少ない状態になります。しかし表面の方は酸素量が多いので、それを撹拌します。この度、魚が少し死んだりしていますので、撹拌、循環することによってそれがなくなるのではないかと期待しています。

場所については、試験的に、一番深い北側に設置してみるという状況です。

今後移動させる予定があるかどうかについては、今の状況は確認していません。

（深澤市長）

現在、鳥取県と市は一緒に湖山池の汽水化等の取り組みをしています。湖山池は、魚が

死んだり、夏場になると塩分濃度が高くなるなどの様々な問題が発生しており、そういう状況を改善していくため、定期的に湖山池会議というのを開いています。そして、この貧酸素状態をどう解消していくか、あるいはどの辺りにその状況があるのかなどを常時把握しながら、改善策を講じていきます。そのため、必要があればまた他のエリアでも対応をしていくことになると思います。

（担当課補足：生活環境課）

このたび設置したものは、ジェット・ストリーマー（噴射型流動促進式水域浄化装置）という装置です。湖山池の水質改善対策（特に夏季の貧酸素化の解消）を目的とするもので、適切な水質モニタリングを７月下旬から１０月まで行い、水質浄化効果等の検証を行います。

現在設置している場所は、三津（鳥取医療センター南付近）で、この付近は夏になると湖山池の中でも貧酸素化で溶存酸素が少ないエリアです。

今後は効果等の検証結果により、設置、移動等についての検討をおこないます。

今年度も、県と一緒に周辺地域への説明会を実施することとしており、その中で、この装置設置後の状況についても説明させていただく予定です。

（地元意見）

今年から福井集落のイノシシの捕獲の管理者になり、毎朝５時に起きてイノシシの巡回をしていますが、今、福井でトンネル工事をしていて、日中は相当大きな機械音がしています。その影響かどうか分かりませんが、イノシシの活動が非常に活発になっています。そして、せっかく３年ほど前に集落の農地の周りにメッシュを張ってもらったのに、もう田んぼの中を荒らして回っています。どこから入っているのか分かりません。それで結局、個人個人が一所懸命田んぼを電気柵で囲わなければいけない状況になっています。

トンネル工事の影響なのかどうか、国等に問い合わせてほしいです。また、メッシュの周囲を鳥取県と市とで一度点検してもらって、イノシシがどこから入っているのか調べてほしいです。

（農林水産部長）

トンネル工事の影響で活発化しているのかどうかについては、イノシシの生態に詳しい方にも聞いてみたいと思います。その結果は、また報告させていただきます。福井の皆様がワイヤメッシュで農地の周囲をほぼ全域囲われたのは私も見ていますので、もしかするとどこか弱い所があるのではないかという印象を受けました。鳥取県の鳥獣対策センターには専門家もいますので、一度現地を確認させていただいて補強をするなり、あるいは設置方法について改善できる点があれば、一緒に現地を見る中で説明させていただきたいと思います。

（担当課補足：農業振興課）

トンネル工事のイノシシへの影響について国土交通省鳥取河川国道事務所へ問い合わせたところ、因果関係ははっきりしないとの回答をいただいています。

また、侵入防止策については、７月２１日に現況確認を行ったところ、未施工場所のうち１か所に、管理不充分による侵入がみられることを確認したため、当該箇所については、一部補強等の対策を地元で行うこととなりました。

（地元意見）

吉岡温泉町の温泉館の建設については前向きな検討をしていただいて、大変ありがたいです。

実は、吉岡温泉町に秋葉山という山がありますが、温泉館を建設する時には秋葉山も同時に整備したいと考えています。今までは、秋葉山の上の展望台から湖山池が見えていたのに、今は樹木がたくさん茂って見えなくなっているのです。何とか吉岡温泉町の住民で伐採しようとしていますが、費用が多くかかります。

地域の課題の防己尾公園の整備に対する市の説明の中に、「眺望を阻害している樹木等の伐採については、景観に配慮しながら対応を検討していきたい」と書かれています。

もしよければ、秋葉山の樹木の伐採についても併せて検討してもらえないでしょうか。

（都市整備部長）

都市整備部の管理であれば、一緒に伐採を検討したいと思います。

（担当課補足：観光戦略課）

現状を確認したところ、秋葉山一帯は一部保安林指定個所もありますが、大部分が民有地です。

吉岡温泉地の活性化については、現在、吉岡温泉町、吉岡温泉旅館組合と市で組織する「吉岡温泉活性化連絡会」において検討を進めており、活性化策の一つとして秋葉山の公園化についても協議を進めることとしております。

ご要望の樹木の伐採については、民有地であるため地権者の協力をいただくことが前提になりますが、活性化連絡会において眺望の確保に向けた具体的な進め方を検討していきたいと考えます。

（地元意見）

市長以下、ご存知ない方もあるかもしれないので、湖南地区の良いところをご披露しておきたいと思います。

実は当地区には、保・小・中と１つずつあり、県内で初めて小中一貫校が作られてから、もう少しで１０年を迎えます。市の教育委員会では、児童数が１００人以下の小学校において「小規模転入制度」を採用していて、今１０校ほど手を挙げています。湖南学園も小学生が１００人を切っているため手を挙げていて、現在では他校区から小中合わせて２７名の児童生徒が通っています。他の小学校でも、一番多くて１０名程度でしょうか。そんな中で２７名も地域外から転入してくるというのは、それだけ湖南地区が良い所だということだと思うし、まだ増えるのではないかと感じています。

このように、湖南地区は、他地区から希望して湖南学園に児童や生徒が通って来るほど良い地域だということをご披露します。

８　市長あいさつ

長時間にわたり、本当に熱心にご議論いただきました。また、さまざまなご意見やご提言をいただいたことに対し、心から感謝申し上げます。

最後に秋葉山の樹木の伐採についてお話をいただきました。私も小学校の時だったと思いますが、遠足に来たことを思い出しました。また、担当がどこの部かということは別に現状を確認させていただき、できる限り対応させていただけないか検討したいと思います。

人口減少等の関係でも、いろいろなご質問をいただきました。これは、湖南地区はもとより鳥取市全体の大きな課題です。今後いろいろな施策を一所懸命取り組んで鳥取市の人口減少をなんとか食い止め、将来も鳥取市が存続し、もっと発展していくように、今こそ皆様と一緒になって進めていきたいと思っています。

本日は本当に長時間、ありがとうございました。